



〈息子と2人で行った〉
**アメリカ西部アドベンチャー
 ドライブ旅行の記録(その2)**
**10-Day Adventure Driving Tour
 in the U.S.A. by Nory Koinuma**

(第2回) ドキドキの初ドライブからヨセミテ国立公園まで

前回は、今回の旅に出発するまでの過程を紹介しました。今回はいよいよアメリカに到着した第1日と第2日のエピソードを紹介します。特別に4ページ拡大版です。

1. 第1日 (サンフランシスコ到着～市内観光①)

(1) 入国からドライブ出発まで

成田を離陸したのが1日午後4:40。9時間20分の飛行時間を経てサンフランシスコ (San Francisco) に到着したのは、日付変更線を超えたために同日の午前10:00。この時間は日本では夜中の2時にあたります。ところが、機内で2度の食事が出たことや座席が窮屈であったことから2人ともほとんど眠れず、徹夜状態でアメリカ第1日を送ることになりました。入国手続きは、噂に聞いていたとおりかなり厳しく、一人一人にすごく時間をとられ、自分たちが通過するまで1時間以上待たされました。

空港を出ると、レンタカーを借りるためにシャトル電車で大手レンタカー会社が入った巨大な専用ビルへ。日本から予約してあった私はコンピューターの受付機で受付を済ますと、そのビルの2階にある駐車場へ案内されました。そこで、車のキーをもらおうと、「あそこにあるから乗っていけ」という指示。「へっ？何の説明もしてくれないの？」息子が「お父さん、この車だよ」と見つけてくれた車は真っ黒なシボレー。「周りにはいっぱい日本車があるのに、よりによってアメ車かよ…」ちょっぴり落胆しながら車に乗り込んでみると、やはり日本車とはいろいろな部分が異なっており、使い方がよくわからない箇所があります。でも、キーを回せばエンジンはかかるし、ギアを入れれば動き出すし…。とにかく、荷物を積み込んで出発することにしました。

(2) 恐怖の初ドライブ

26年前に留学していた時に毎日車を運転していたといっても、それは道をよく知っている田舎街の中でのこと。初めて来た大都会サンフランシスコではどうしていいかわかりません。使い方のよくわからない小さな画面のカーナビに最初の目的地である Golden Gate Bridge を入力すると目的地までの指示が示されました。幸いなことに、このカーナビは言語を8カ国語に切り替えることができたので、息子にもわかるよう日本語に切り替えて出発しました。

ところが、そこからが大変でした。いきなり入ったフリー・ウェイ (高速道路) は片側が5車線もあります。その上、制限速度は時速65マイル (約105km/h) なのにみんなそれ以上の速度でバンバン走っています。「ひえ～！こわい～！」と何度叫んだことか。そんな情けない父親の姿に息子はさぞやがっかりしているだろうと助手席を見ると、なんと彼はぐっすり眠っています (時差ボケによる眠気が一気に来たようです)。仕方なく一人で地図とカーナビをにらみ、正しく目的地方向に向かっているかを確かめながらの運転となりました。こんなので本当に10日間もドライブできるのだろうか…。

(3) あこがれのゴールデン・ゲート・ブリッジ (Golden Gate Bridge)



東海岸最大の名所がニューヨークの「自由の女神」だとすれば、西海岸最大の名所はサンフランシスコの「ゴールデン・ゲート・ブリッジ」と言えるでしょう。そのあこがれの場所に着きました。事故を起こさないようにと冷や汗だくだくで車を止め、眠っていた息子を起こして外に出ると、その汗が一気に引いてしまうほどの寒さでした。気温計は「64度」(華氏。摂氏では17度)。「夏は涼しい」と言われているサンフランシスコですが、真昼の晴天時でこの気温では酷暑の日本から来た私たちには別世界に感じられました。

展望台に着くと、目の前にはよく写真で見えるあの雄大な景色が広がっています。青く美しい海とその上をすべるたくさんの白いヨット、霧で白く曇った空に生える真っ赤な巨大な橋。眠気が覚めず、ボーっとしている息子は何が何だかよくわからないようでしたが、私にはようやく「アメリカにきたぞ〜!」という実感がわいてきました。そこでしばらく景色を楽しむと、サンフランシスコの市街へ向けて再出発しました。

(4) 「世界一曲がりくねった道」のロンバード・ストリート (Lombard Street)

市内へはフリー・ウェイを5分も走れば到着しましたが、そこでまた新たな問題に直面しました。大都会の市街地は交通量が多く、あちこちに一方通行路があるので、走るのが神経を使うからです。ところが、次の目的地であったロンバード・ストリートの正確な位置がよくわかりません。仕方なく、地図を見ながら勘を頼りに「きっとこの辺だろう…」と一方通行路をなんとかつかないでいくと、運良くその場所に到着できました。

ロンバード・ストリートは、どんなに急な坂道でも直線で一気に上り下りするサンフランシスコにあって、唯一くねくね曲がった坂が約200メートルにわたって造られたところです。前の車にぶつからないように、狭い道の壁にぶつからないように、ゆっくりゆっくりとその坂を降りていきました。この坂の面白さは息子にもわかったようで、「お父さん、車を止めて見に行こうよ」ということになり、坂を下りて右に曲がったところで車を止め、たくさんの観光客と共に記念写真を撮ってきました。



(5) アメリカンでジャパニーズな初日の夜

いきなり緊張のドライブが続いたこともあり、この時点で有名なアルカトラズ島とチャイナタウンの観光はあきらめ、唯一日本から予約してあった初日のホテルに早々とチェックインすることにしました。アップダウンの続く市内の坂道をしばらく走ると、市内随一の繁華街でもあるマーケット・ストリートにあるホテルに到着しました。

ホテルの部屋に入ると、それまでの緊張が一気にほぐれたのか、猛烈な眠気が襲ってきました。そこで、2時間くらい仮眠をとったのですが、起きると今度は急にお腹が空いてきました。入国審査やらレンタカーの手続きやらでお昼を食べるのを忘れていたからなのです。しかし、ホテルにあるレストランでは何が食べられるのかよくわかりません。メニューを見て息子も不安そうな顔をしています。仕方なくホテルの玄関から外へ出てみると、道の反対側に日本でもおなじみのハンバーガー店がありました。「ハンバーガーでいいかい?」と息子に聞くと、彼もホッとしたような顔でうなづきました。

ホテルの部屋に帰ると、今度は時間つぶしに苦労しました。テレビをつけても息子は理解できずつまらなそうです。仕方がないので、こんな時のために持ってきたDVDプレーヤーで「ALWAYS 三丁目の夕日」を見ることにしました。2人ともすでに何度も見た映画でしたが、ああだこうだと2人で言いながら楽しく見ることができました。

2. 第2日（サンフランシスコ市内観光②～ヨセミテ国立公園）

(1) 早朝のケーブルカー（Cable Car）



ケーブルカーはサンフランシスコを代表する観光物です。全部で3路線ありますが、一番人気があるのがマーケット・ストリートとフィッシャーマンズ・ウォーフを結ぶ線。ただ、10分毎に出ているとはいえ、たった1両なので昼間は混んでいてなかなか乗れないとのこと。そこで、早朝の空いている時間をねらって乗ることにし、ホテルをチェックアウトする前の朝7時過ぎに乗りに行くことにしました。ホテルから15分ほど歩いて乗り場に着くと、すでに数人がケーブルカーを待っていました。

車掌さんに運賃5ドルを払って乗り入りこむと、ケーブルカーは急な上り坂も下り坂もものともせずに進みます。途中で何カ所か大きな交差点にある停留所で止まりますが、20分ほどで終点のフィッシャーマンズ・ウォーフに到着しました。

(2) フィッシャーマンズ・ウォーフのアシカ（Fisherman's Wharf）

フィッシャーマンズ・ウォーフは元タイタリア系猟師の波止場でしたが、今ではサンフランシスコ屈指の観光地になっています。実は、ここのシーフード屋台で美味しい料理を食べるのが当初の目的の1つだったのですが、早朝だったこともあってお店は1軒も開いておらず、観光客もほとんどいません。それでも私たちにはある楽しみがありました。それは港の先端付近に野生のアシカがいる場所があるという情報でした。そこで、ピア39という埠頭の先端まで行ってみると…。いました！いました！動物が休めるように置かれた木製のいかだの上に、大きなアシカとアザラシが何十頭も折り重なるようにして寝ています。中にはけんかをしているものもいて実ににぎやかです。息子はその様子がとても気に入ったようで、いろいろな角度から写真を撮って楽しんでいました。

野生動物を見て満足した私たちは、マーケット・ストリートを走る路面電車がここから出ていることを知っていたので、世界中から集められたという色も形も様々な路面電車の1つに乗ってホテルへ帰り、一晩お世話になったホテルをチェックアウトしました。



アルカトラズ島（元刑務所）



アシカとアザラシの群れ



世界中から集められた路面電車

(3) 初めての買い物

今日の最終目的地であるヨセミテ国立公園へはフリー・ウェイを東に300kmくらい走らなければなりません。大きなベイ・ブリッジを渡ってサンフランシスコとお別れすると、道はすぐに砂漠地帯を走るようになりました。出発時に15度しかなかった気温はみるみる上がり、1時間ほど走ると30度を超え、ついにある場所で40度に達しました。

そこで、自分たちの水分補給と万が一のオーバーヒートに備え、水のタンクを購入することにしました。砂漠の中の街でフリー・ウェイを降り、一番近くにあったショッピング・センターに立ち寄りました。ところが、困ったことにどの建物で何を売っているのかがわかりません。何度も地元の人に尋ねてようやくドラッグ・ストアを見つけ、水2ガロン、清涼飲料水3本、日焼け止めを購入しました。買い物をするのも大変だ…。

(4) 飛び込みでモーテルの部屋をゲット



アメリカを車で旅行する際に人々が最もよく利用する宿泊施設がモーテルです。モーテルの利点は部屋の前まで車で行け、荷物をすぐに部屋に入れられることです。大きなチェーンのモーテルであれば、部屋はホテル並みにきれいで値段はリーズナブル。ところが、自分たちが行こうとしているところはアメリカでも屈指の景勝地として知られている国立公園であり、都会から離れた山岳地帯にあるので、宿泊施設の数も限られています。特に8月は一番のハイシーズンです。予約無し飛び込みで部屋が取れる

保証はありません。そこで、ヨセミテ国立公園の西の玄関口にある町で、公園に行く前に大手チェーンのモーテルに寄ってみることにしました。モーテル着くと、案の定入り口のドアには "Sorry No Room" の看板がかかっています。最初は落胆したのですが、そこはただで引き下がらない私のこと、何とかならないかと掛け合ってみることにしました。すると、受付のおばさんが「もしかしたら1部屋空くかもしれない。確認の電話をいれるから待って」とのこと。そして、「あなたラッキーよ。今日一番に来たから部屋をゲットできたわ」と言って部屋のキーをくれました。ただ、この幸運体験が6日目に大変な事態を招くことになるうとはこの時は想像もしていませんでした…。

(5) 西海岸随一の景勝地ヨセミテ国立公園 (Yosemite National Park)



さあ、今日の宿泊地は確保できました。こうなれば帰りは何時になっても構いません。ヨセミテ公園まではまだ80km近くあります。現在4時。夏は8時過ぎまで明るいアメリカですから、現地でも2時間くらいは観光できるはず。5時に公園の西ゲート着。入園料25ドルを払い（アメリカの国立公園は車で通過するだけでも入園料を取られます）、どんどん奥へ進んでいきました。すると、落差が200mもあるブライダルベール滝、世界一大きな花崗岩の一枚岩

であるエルキャピタン、上中下の3つに分かれた滝の合計落差が世界第8位の740mもあるヨセミテ滝などが次々と視界に飛び込んできました。こうなれば、公園内で最も景色がよいとされているグレイシャー・ポイント（峠の1つ）に行くしかありません。しかし、そこへ向かう途中で、そこまで行くとホテル帰着が早くても9時半になりそうだというのに気づきました。公園に来るまでに通った高速山岳道路を真っ暗な夜に走るというのは危険極まりません。今回は息子も一緒なのだと自分を言い聞かせ、途中で引き返す決断をしました（それでもモーテル着は8時を過ぎてしまいました）。

なお、この日の夕食はモーテル前にあった中華レストランで焼きそばと餃子を食べ、ハンバーガーに飽きた胃を慰めてあげました。



ブライダルベール滝



エルキャピタン



ヨセミテ滝

<次回予告> 次回は「世界最大の生物」とディズニールンドが登場する3～4日目です。